情報コーナー

研究発表会の開催

平成23年度に実施した教育研究事業の内容や成果を広く皆様に報告するため開催している「研究発表会」の開催日が次のとおり決定しましたので、お知らせします。

開催日時

平成24年5月30日（水）9:45〜17:00（予定）

開催場所

北海道立立見台立見センター
（かでる2-7）札幌市中央区北2条西7丁目

参加料

無料

☆☆ホームページもご覧ください☆☆
http://www.ies.hro.or.jp

よもやま話

国際交流と環境教育

環境科学研究センターでは、これまでにも様々な環
境教育を行ってきましたが、2004年度に行われた環
境教育は大変ユニークな企画でした。

当時は、国際協力機構（JICA）からの依頼を受け、環
境保全のための技術研修を実施しており、2004年度
はモロッコ、ドミニカ共和国、インドネシア、フィリピン等
とタイからの参加がありました。また、JICAの研修と時
期を同じくして、喜茂別中学校から環境教育の申し込
みがありました。そこで、当時の企画課（出口課長）ら
は、JICAの実地研修に組み入れ、研修生に伴った環境
教育を喜茂別中学校で行うこととしました。

私が受講した中学校の頃よりも、今回の環境
学習は密度の濃いものになっていたと感じま
した。受講する生徒が少ないということもあり
ますが、生徒全員が実際に教材に付けて実験を
できるということとても貴重なことだと思います。ま
た、実験を教える講師の人数も4〜5人に一人の
割合だったのを、全体の流れも難しくなってスムーズ
に進んでいたと感じます。

内容的には私が受けた時とあまり変わらないと
思いますけど、授業に対しての理解が深まる、
学んだ分野への興味・関心を持つという点では、
今回の環境学習を受けた川瀬中学校の生徒たち
のほうが強く感じたのではないでしょうか。

地域に根ざした環境教育を目指して
地域に根ざした環境教育を目指して

環境科学研究センターでは、これまで、個々の研究員が、独自に実践プログラムを作成し、サードワークとして環境教育を行ってきました。しかし、所内の連携を図り、また、本州とは異なる北海道の気候・生活環境を反映するなど、より良い環境教育の機会を提供するため、平成22年8月、「環境教育研究会」を設立しました。平成24年3月末現在、以下の機関の所属職員、会員となっています。

環境教育研究会 会員所属機関
- 地元 道徳環境研究・地域研究本部
- 環境科学研究センター、企画課
- 財団法人北海道環境財団
- 北海道大学大学院環境科学

GOE 環境教育研究交流推進室

学校向け環境教育支援プログラムの作成

まず、環境教育研究会では、研究者間の交流機会を設け、個々に作っていった実践プログラムや既存のプログラムを集め、その管理と再構築を始めました。

一方、学校などの教育現場では、環境学習を実施しないために、環境に関する専門知識や実践プログラムが不足している状況であるという認識がありました。

そこで、平成23年度、北海道立教育研究所附属理科教育センターとともに、学校に示されたプログラム作成フローに従って、環境の専門家でもなくでも使用できる北海道に密着した独自の環境教育支援プログラムを作成しました。

支援プログラムは、それぞれ初級級・中級級を作成しました。初級級は、小学校学年を対象とした具体的な学習の時間での活用、中級級は、中学生・高校生を対象とした理科の授業での活用を想定しています。

プログラム作成フロー

環境科学研究センターで、プログラムの作成・出前講座の実施以外に、プログラムの貸出、イベントへの出展、所学の視点対案など、様々な環境教育の支援・実践を行っています。例えば、言語教育及び「グローバル化の伝統」の世界の出展も行っています。今作の作品は、約30年前に作られたもので、中国式水素燃料（CO2）の温室効果について触れるもので、今夏、アメリカ映画が公開されるそうです。

また、今回、紹介した内容は、幼児教室から高校生を対象としたものですが、民間団体・大学・社会人を対象とした環境教育についても対応しています。

環境教育を受けたため

平成23年度に出前講座を提供された地方教育機関の担当は、企画財務課の若松さんでした。若松さんは、中学生だった頃に、環境科学研究センターによる出前講座を受講されていました。今回の出前講座を終了して、若松さんからのコメントをいただきましたので、紹介します。
地域に根ざした環境教育を目指して

環境科学研究センターでは、これまで、個々の研究員が、独自に実証プログラムを作成し、サードワークとして環境教育を行ってきました。しかし、所内の連携を図り、また、本州とは異なる北海道の気候・生活環境を反映するなど、より良い環境教育の機会を提供するため、平成22年8月、「環境教育研究会」を設立しました。平成24年3月31日現在、以下の機関の所属教員が、会員となっています。

環境教育研究会 会員所属機関
- 地域 退職教員・地域研究研究班
- 環境科学研究センター、企画課
- 財団法人北海道環境財団
- 北海道大学大学院環境学

- GOE 環境教育研究交流推進室

学校向け環境教育支援プログラムの作成

まず、環境教育研究では、研究の発表・交流の機会に、個々に行ってきた実証プログラムや現存のプログラムを集め、その整理・再構成を始めました。一方、学校などの教育現場では、環境教育を実施しつつでも、環境に関する専門知識や実証プログラムが不足している状況であるという指摘がありました。そこで、平成23年度、北海道立教育研究会附属環境科学センターと共同で、学校に示されたプログラム作成フローに従って、環境の専門家でなくても使用できる北海道に密着した独自の環境教育支援プログラムを作成しました。

支援プログラムは、それぞれ初級編・中級編を作成しました。初級編は、小学校高学年を対象とした総合的な学習の実践での活用、中級編は、中学生・高校生を対象とした理科の授業での活用を想定しています。

プログラム作成フロー

1. プログラム作成	
   - 空気	(大気汚染、酸性雨)
   - 水	(水質調査)

2. 環境科学研究センター
   - 道内モニタリングデータ
   - これまでの環境教育ノウハウ

3. 環境教育研究センター
   - 学習指導要領
   - 教育現場が抱える課題

4. プログラム作成
   - 改良意見を反映し、「プログラム完成」

支援プログラムの利用例

- 環境科学研究センターでは、地域の学校や地域住民に、プログラムの作成・出前講座の実施両者で、プログラムの作成・出前講座の实施、イベントへの出演、所内の視察ツアーなど、様々な環境教育の支援・実践を行っています。例えば、製品開発支援「Outputs」の紙管による出前講座にも参加しています。その作品は、約80年前に書かれた負責ですが、二酸化炭素（CO2）の温室効果について触れている。今夏、アニメ映像が公開されるそうです。

- また、今回ご紹介した内容は、幼稚園から高校までを対象としたものですが、小学校・中学校・大学を対象とした環境教育にも対応しています。

環境教育を受けるのは

- 平成23年度に出前講座を実施された若葉学園の受講者の担当は、企画担当の若葉さんでした。若葉さんは、中学生が集まる場で、環境科学研究センターによる出前講座を受講させていただきました。今回の出前講座を終了して、若葉さんは、この環境教育を活用することを提案していただきました。
情報コーナー

研究成績発表会の開催

平成23年度に実施した研究研究事業の成績を広く皆様に報告するために開催している「研究成績発表会」の開催日が次のとおり決定しましたので、お知らせします。

口頭発表とポスター発表を行う予定で、プログラム等詳しい日程が決まりました。改めて関係者様の皆様にご案内申し上げますので、参加をお待ちしております。
また、開催前日は当センターのホームページに掲載しますので御覧ください。


記念品

date: 2024年5月30日（水）
9:45～17:00（予定）

会場

北海道公立財政センター
（かでる2・7）
札幌市中央区北2条西7丁目

参加費

無料

☆☆ホームページもご覧ください！！☆☆
http://www.ies.hro.or.jp


よもやま話

国際交流と環境教育

環境科学研究センターでは、これまでにも様々な環境教育を行ってきましたが、2004年度に行われた環境教育は大変ユニークな企画でした。

当時は、国際協力機構（JICA）からの依頼を受け、環境保全のための技術研修を実施しており、2004年度はロッテクリニアル、ドミニカ共和国、インドネシア、フィリピン及びタイからの参加がありました。また、JICAの研修と時期を同じくして、喜茂別中学校から環境教育の申し込みがありました。そこで、当時の企画課（出長課長ら）は、JICAの実地研修に組み入れ、研修生に伴った環境教育を喜茂別中学校で行うこととしました。